

2019年度（公財）北海道サッカー協会 審判トレセン札幌ブロックアカデミー①②活動報告

1 日 時 ① 2019年12月9日（月）
② 2020年1月11日（土）・12日（日）

2 場 所 ① 札幌市中島体育センター
② 札幌ドーム

3 大 会 冬季プレミアU-12（4種）
34分（17-6-17）

4 参加者 一瀬 哲平（道科学大高）
高須 賀鉄平（札幌白石高）
岩本 駿士（札幌平岡高）
蝦名梢（札幌北斗高） 以上4名



5 研修テーマ 「見に行く」

各地区のトレセンチームが集まる大会において、1人審判制をする事で「見る」ではなく「見に行く」ことの大切さ、対角線・角度・距離の重要性を体験する。

6 研修概要 ①では1人審判制について、また、研修テーマについて講義を2時間行いました。②では実際に実技を行いました。2コート設定され、各コート9試合、2日間に渡り各審判員が1日2試合審判を行いました。試合後にはINSとのディスカッションや、2級若手審判員5名とのディスカッションなど有意義なものとなりました。

7 参加審判員の感想



今大会は僕にとって2回目の研修でした。2回目ということも、今年度のサッカーで主審をたくさんできたこともあり、自分的にうまくできていた部分が昨年度よりは多くなっていたと思います。しかし、今回できていない部分が浮き彫りになったのでそれを無くせるように頑張りたいと思います。

高須賀哲平

今回初めて研修会に参加して自分の課題が浮き彫りになりました。二日間走りきる体力、競技規則の解釈がまだまだ不十分だと感じたので、シーズンが始まるまでにその二つの課題をクリアしてシーズンにスムーズに入れるようにしたいと思います。 岩本 駿士

ユース審判員としては最後の研修でしたが、初めて後輩レフェリーが研修に参加をしてくれた事により彼らの向上心溢れるレフェリングと研修への意欲的な取り組みが大きな刺激になりました。研修会で学んだことを私達の審判活動の糧にできるよう頑張っていきたいと思いま
一瀬 哲平

8 研修を終えて

2日間に渡り開催され大会であったが、ユース審判員にとって充実した有意義な時間となりました。テーマ「見に行く」という事を意識し、対角線（逆対角を含む）・角度・距離をしっかりと考え積極的に取り組む事ができていた。今回の研修が初めての研修参加という2人がおり、心配ではあったが大きな問題もなく研修が終えられた事は2人にとって大きな財産となった。

